

2013 年中土佐タッチエコ・トライアスロン

右城 猛

マラソンが市民スポーツとして大きな広がりを見せているが、トライアスロンもブームになりつつある。

11月10日(日)、第3回目となる「中土佐タッチエコ・トライアスロン」が開催された。個人の部に188人、リレーの部に21チーム(63人)、合計251人のアスリートが全国から参加した。

アスリートから「中土佐の美しい自然とあつたかいおもてなしに感動した」と評判がよく、年々参加者が増えている。

今年からは、スイム1.5km、バイク41.2km、ラン10kmの本格的なオリンピック・ディスタンスの大会となった。



スイムが行われるのは、中土佐町人権啓発センターがある前の小鎌田海岸。

当初は、スイムのコースを堤防から外に出るように設定されていたが、天候が悪く少し海が荒れていたため防波堤の中を3周りするコースに変更。

事故対策として、救助隊がボート、サーフボードに乗って万全の体制の中で競技が行われた。



アクアラングを付けた救助隊も待機。



9時30分のスタートの前に、海に入って準備運動。海水の水温は20度。寒くはない。



衆議院議員の中谷元先生はリレーの部に、須崎市長の楠瀬耕作氏、中土佐町の池田洋光氏とチームを組んでランで出場。

参加者全員が、第一コンサルタンツの社名が入ったゼッケンを付けている。



スイムのスタート地点で開会式。水温が 20 度で 22 度に満たないため、全員がウエットスーツを着用している。



スイムで出場する須崎市の楠瀬市長と昨年の大会で 1 番になった九町俊吾さん(高知)が選手宣誓。



9 時 30 分にスイムがスタート。209 人が次々と海に入る。



小鎌田海岸の防波堤の中に設けられた 0.5km のコースを 3 周する。



1.5km を泳ぎ終わると人権啓発センターの庭に設けられた駐輪場に向かう。



ウエットスーツを脱ぎながら駐輪場に向けて走る二宮幸輝氏(愛媛県)。



高知県観光振興部の久保博道部長は、高知家ローリングファイターズチームでスイムを担当。日頃からプールで鍛えているだけあって筋肉隆々。



スイムを終えてお互いの健闘を讃え合う久保博道部長と須崎氏の楠瀬耕作市長。



ストマックレンジャーズチームの3人。左より衆議院議員の中谷元先生、中土佐町の池田洋光町長、須崎市の楠瀬耕作市長。

他のアスリート達のような緊張感はないリラックスモード。



駐輪場に置かれた自転車に乗る。



バイクの競技コースに向かう。



バイクコースの折り返し地点。往復 3.2km のコースを 13 周する。

雨で路面が濡れているためスリップしやすい。折り返し点を U ターンする際に、スリップして転倒する事故が 2 件発生した。2 人とも軽い怪我ですみ、競技を継続できたのは幸いであった。

不幸にも自転車のタイヤがパンクし、スペアタイヤを駐車場の車まで取りに行く選手もいた。



第一コンサルタンツの社名が書かれたゼッケンを付けてバイクをこぐアスリート。



ゼッケン 605 番は中土佐町の池田町長。



バイク競技を終えて駐輪場へと向かう昨年一

位の九町俊吾選手。バイクの距離が昨年度の2倍になっていたため、愛媛県の渡邊浩司選手から大きく引き離された。



バイクを置いて往復10kmのランコースに向かう選手。



ここがゴール。中土佐小学校の女の子がテープ係。



ゴールインする有澤あゆみ選手(高知県)。この大会には女性が18名出場している。



ゴールしたアスリート全員に間伐材で作られた第一コンサルタンツの社名入り完走証メダルを渡す。

メダルを渡す役は、私と中土佐小・中学校の生徒。



リレーの部のマッタリチームでランを務めたミタニ建設工業の三谷剛平社長。



高知工科大学の楠本健選手もゴール。



リレーの部の相愛チームでランを務めた永野敬典社長。



マッタリチームの3人組。左よりランの三谷剛平社長、スイムを担当した飛鳥の永野正将社長、バイクを担当した西野風人氏。

第一コンサルタンツは、経営方針の一つに社会貢献を掲げている。スポーツ関係では、四万十川ウルトラマラソン大会、よさこい祭り「本山さくら」チームの地方車製作に協賛させていただいている。

今回、新たに、中土佐タッチエコウルトラマラソン大会に協賛させていただいた。アスリートたち、大会の準備・運営をされるスタッフの皆さん、そして競技を応援する人々の笑顔を見ていると協賛させていただいて本当に良かったと思った。

改善すべき点がいくつかあるように思えたが、それらを改善しながら回を重ねて行けば、素晴らしい大会に成長すると確信した。

(2013.11.10、右城)